

かち・人・interview

2026年1月6日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
熊本河川国道事務所長

和田 賢哉 氏

WADA Kenya

熊本県の河川と道路に関する多岐にわたる業務を担当する熊本河川国道事務所。白川、緑川の川づくりと、国道3号、57号、208号、中九州横断道等の道づくりを通じて、地域の発展・活性化に貢献している。今年7月、就任した和田賢哉氏は、九州の勤務は23年ぶり3回目。
熊本都市圏の渋滞対策や流域全体で水害を軽減する「流域治水」の重要性を強調する。
今後の取り組みや地域との連携について話を聞いた。

Q 所長就任にあたっての抱負

前任地の東京では、熊本県はTSMC進出などで半導体関連産業の集積が進み、経済的に活況を呈し、大変元気がある地域との印象を持っていました。赴任後は特に県北地域では企業立地が進み、人口や交通需要も増えており、経済界や周辺自治体のトップから道路整備や渋滞解消の要望を直接お聴きします。国交省としては熊本市中心部やセミコンテクノパーク周辺の定時性確保や時間短縮が図れるよう、中九州横断道路等の道路網の整備に力を入れていきたいと考えています。

また、災害への対応も重要度が増しています。8月の豪雨では県内も大きな被害を受けましたが、激甚化する自然災害の脅威を改めて実感しました。経済活動や生活においても安全・安心を提供する治水事業は大変重要であり、力を入れていきたいと考えています。



▲中九州横断道路 大津熊本道路(合志～熊本)塩浸川橋下部工

Q 熊本県や九州地区との関わり、記憶に残る仕事

2002年に入省して最初の赴任地が福岡県の福岡国道事務所でした。2年目は鹿児島県の川内川河川事務所に勤務しましたので、九州は23年ぶり3度目になります。当時お世話になった上司や先輩方に恩返しができるよう、事務所管内の事業を着実に進め、熊本県内だけでなく、九州の発展に貢献したいと気持ちを新たにしたところです。また、私自身は千葉県出身ですが、両親と家内が福岡県出身で7年前には福岡に自宅を購入しました。個人的にも今回の熊本勤務を大変嬉しく思っています。

記憶に残る仕事は、首都圏を囲む環状道路「東京外かく環状道路」の事業で住民の方々とのコミュニケーションの大切さを学んだことです。地元の反対で30年近く事業がストップしていましたが、2008年

から2年間、東京外環国道事務所の調査課長を務めました。地下40m以深のトンネル構造であり、多額な事業費や環境に与える影響などに対して沿線住民からの心配の声が絶えなかったですが、各地域で説明会やワークショップを開催し、住民の方々の懸念や不安の声に対して丁寧に耳を傾け、分かりやすい言葉で答えていくといった対応に努めました。

コミュニケーションの大切さと、相手の立場で物事を考えることの重要性について学んだとても貴重な経験でした。現在もこの姿勢は大切にしていて、事務所職員と一体となって地域の声を受け止め、期待に応えていきたいと考えています。

Q 令和7年度の事業概要について

●九州中央自動車道

九州中央自動車道については、2024年に「山都中島西～山都通潤橋」間(10.4km)の開通で九州縦貫自動車道・嘉島ジャンクション～山都通潤橋間23kmが開通しました。現在、宮崎県境で事業中の「蘇陽五ヶ瀬道路」(蘇陽(仮称)～五ヶ瀬東(仮称)、7.9km)は用地買収を終えた所から工事に着手していて、「矢部清和道路」(山都通潤橋～清和(仮称)、10.3km)は2022年度に事業化され、現在測量・設計と用地買収を進めている段階です。今後用地にめどが付いた箇所から工事に入っていく予定です。

宮崎県側の開通に対する要望も強く、高千穂や通潤橋と



▲九州中央自動車道 蘇陽五ヶ瀬道路 地盤改良近接
いった豊かな観光資源が広域ネットワークでつながることで多くの人が訪れるエリアになるはずで期待も大きいです。南海トラフ地震発生時には中九州横断道路と並び不可欠な支援路ですので、九州の重要な横軸として、しっかり整備に努める方針です。

●中九州横断道路

中九州横断道路については、「大津熊本道路」(大津西(仮称)～熊本北(仮称)、13.8km)は、2020年度に事業化した合志(仮称)～熊本北(仮称)間9.1kmで順次用地買収を進め、合志市野々島や合生地区では橋脚などの工事に着手し

ています。また、2022年度に事業化した大津西(仮称)～合志(仮称)間4.7kmは測量・設計と用地買収を進めてきましたが、本年12月に着工式を開き、来年にも幾久富地区で工事に本格着手する予定です。合志(仮称)～西合志(仮称)間3.6kmは早期開通に向けて県と合志市、また、地域の方の協力で用地の先行取得が進んでいる区間で、大津熊本道路(合志(仮称)～熊本北(仮称)間)の用地取得率は本年3月現在で約78%と、順調だと認識しています。2024年度に事業化した「大津道路」(大津～大津西(仮称)、4.8km)は測量・設計などを進めています。また、「滝室坂道路」(阿蘇市波野～同市一の宮町、6.3km)は来年度に開通予定です。

また、2025年度に事業化した「熊本環状連絡道路」(熊本



▲中九州横断道路 滝室坂トンネル(仮称)舗装工事の状況



▲中九州横断道路 熊本環状連絡道路中心杭打ち式(R7年10月)

北(仮称)～下硯川、3.9km)は、10月4日に中心杭打ち式を開催しました。また本事業は本年10月19日に花園～池上熊本駅間の4.6kmが開通した熊本市の「熊本西環状道路」(延長約12km)と連携して、熊本都市圏の渋滞緩和に大きく貢献すると考えています。市内中心部に用のない交通が環状道路に転換し、市内中心部を通過する交通が減少することで、交通渋滞の緩和に大きな効果があると考えています。加えて、リダンダンシー確保の観点からも有効で、大きな効果をもたらすと考えています。なお、県と熊本市は大津西(仮称)～下硯川間17.7kmの早期開通に向けて同区間の有料道路事業導入に向けて都市計画手続きを進めており、国も県・市の要望を踏まえ、有料道路事業導入の方向で検討を進めています。料金を支払って定時性、速達性を確保したい車と、急がない車のすみ分けも可能になり、料金収入に

による事業スピードの加速化が図れる有料道路事業の導入は、大変有意義な提案だと思います。

●国道3号植木バイパス

国道3号植木バイパスについては、事業化区間5.6kmのうち、2023年に開通した0.9kmを加えて計3.2kmが暫定開通済みで、現在残る鎧田～下硯川町間2.4km区間で地盤改良などの工事のほか、埋蔵文化財調査を進めています。



▲国道3号植木バイパス埋蔵文化財(近景)

●緑川・白川改修事業

8月10日からの大雨では県内各地で浸水被害が発生しました。国直轄の河川では緑川が城南の水位観測所で観測史上過去最高の水位を記録しました。これまでの改修事業や緑川ダムの治水効果もあり、ぎりぎりのところで何とか大きな被害を逃れることができました。一方で、直轄以外の中小河川では河川氾濫が発生しましたので、被災地の一日も早い復旧に向けて市町村と連携して取り組んでいきます。

今後の気候変動による激甚化、頻発化する大雨に対応するため、治水対策は重要度を増しています。直轄の白川については下流域で3つの堰の改修、緑川では堤防整備や河道掘削、高潮対策といったハード対策を計画的に進めています。

Q 地域との連携・協働面について

地域の皆さんと連携して取り組んでいきたい課題は、渋滞対策と流域治水です。渋滞については、熊本都市圏では特に朝夕の時間帯は深刻な状況です。都市の構造上、まちの広がりが全方位に及ぼず、中心部へのアクセス道路が限られていることから、交通が特定の道路に集中しやすい特性があります。そのような交通特性からも熊本環状連絡道路などの環状道路の整備が必要と考えます。また、他都市に比べてバスなどの公共交通の利用が少ないことも一因だと思います。こうした課題に対応するため、国交省では「ETC2.0」といったシステムを使って渋滞の原因となる車の起点と終点、経路などを詳細に分析し、出勤経路や時間帯の変更、公共交通機関の利用促進など熊本都市圏の実情に応じた具体的な行動変容の提案を地域や企業ごとに実施していくことを考えています。

現在、県内では県や熊本市を中心に経済界も巻き込んだ時差出勤への取り組みが盛り上がりを見せていますが、国としては2025年度中にもデータに基づいた一歩踏み込んだ提案ができればと考えています。JRやバスなど交通事業

者にも公共交通サービスの経路などの提案ができればと考えています。ぜひ県や熊本市の協力も得て、県民の皆さんに効果的な発信ができればと思っています。

次に流域治水については、激甚化、頻発化する大雨に対応するため、治水対策は重要度を増しており、今後の治水対策は行政のみならず地域社会全体で取り組む必要があると考えています。流域全体で総合的に対策するという流域治水の考え方のもと、民間企業等にも参画を促し、企業の事業継続計画(BCP)の策定支援などを通じて、防災意識の底上げを図っています。また、河川に関わるNPO団体とのネットワークも大切にしながら、地域の防災力向上に力を注いでまいります。行政が行う治水事業だけでなく、自治体や企業、市民の方々と災害を自分事としてとらえ、行動していただくことが重要であると感じています。

Q 九州の建設業界へ要望やメッセージ

建設産業は、災害対応のみならず、地域の活力あるまちづくり、安全・安心な国土づくりに不可欠な存在であり、重要なパートナーであると認識しています。しかしながら、担い手不足が深刻化する中で、安定的かつ持続可能な建設産業とするためには、若い世代にとって建設業が「選ばれる職業」となることが何よりも重要です。そのためには、産官学が連携して、働きやすい環境づくりや将来像が見えるキャリアパスの提示などが不可欠であり、建設産業の魅力がアップするような取り組みを建設業界が一体となって進めて行ければと思います。

Q 健康法や座右の銘など

学生時代はサッカーをしていましたが、最近の趣味は一人でできるジョギングや街歩きをしています。今後は熊本県内の山歩きにも挑戦したいと考えています。

座右の銘は、米沢藩主の上杉鷹山公の言葉「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」です。物事が成し遂げられるかどうかは、自らの意志と行動次第と日頃から心がけています。

プロフィール



千葉市出身 49歳
H14年4月 国土交通省(九州地方整備局
福岡国道事務所)入省
H23年10月 関東地方整備局企画部 企画課長
H27年4月 道路局環境安全課 企画専門官
H29年4月 東北地方整備局 山形河川国道事務所長
H31年4月 内閣府沖縄総合事務局開発建設部
企画調整官

R3年7月 関東地方整備局企画部 企画調整官
R5年7月 道路局国道・技術課 道路メンテナンス企画室長
R7年7月 現職